

家庭科



今村 愛実 佐藤 茜

研究の概要

【家庭科学習でめざす子どもの姿】

家庭科における多様な「観」を愉しむ姿とは、思いや願いを基に設定した共通の目標の達成に向けて、仲間と対話する中で、葛藤したり納得したりしながら、生活をよりよくしようとする姿である。具体的には、以下のような姿をめざす。

- 自分とは違う生活事象の捉え方に興味をもつ姿
- 自分と仲間の生活事象の捉え方を比較する姿
- 仲間と対話する中で、葛藤したり納得したりする姿
- 生活事象の捉え方に違いがある中で、納得するための方法を探す姿

【問題意識】

仲間との対話を通して、生活をよりよくしようとする姿が一部の子どもにしか見られないこと

- ・ 家庭科で学んだ内容を家庭生活にどのように生かすかについては、それぞれの家庭の実情によるという意識があり、対話をする必要性を感じにくいこと。
- ・ 互いに考えを主張し合う中で、自分とは違う仲間の考えを、否定・批判し合うことだけに留まっている子どもがいたり、その状態を避けるために主張することを諦めたりする子どもがいること。

【研究内容1】

仲間との対話を通して、生活をよりよくしようとするための学習指導の在り方

1 仲間との対話を通して、生活をよりよくしようとするための学習指導の在り方

家庭科研究部が定義する「観」とは、それぞれの生活経験や好み、性格などが基となる生活事象^{※1}の捉え方である。具体的に「観」を表出している姿として、例えばカレー作りの計画を立てる際に、「にんじんは大きく切ると、火が通りにくかったから小さく切りたいな。」「にんじんはあまり好きではないから、小さく切りたい。」「切ることが苦手だから、簡単に切れる方がよいな。」等の姿が考えられる。生活をよりよくしようとする際に生活事象をどのように捉えるかについては、生活経験や好み、性格などが基となっているため、一人一人違うと考える。インターネットを使って様々な情報を集めることができる今の時代ではあるが、仲間と直接の対話を通して、多様な「観」を愉しむことは、生活をよりよくしようとするための資質・能力を育むきっかけになるものであると考える。

そのためには、仲間との対話が重要だと考える。対話することは新たな考えに出会い、生活事象の捉え方を広げていくことにつながる。しかし、対話をする中で、時に考えがぶつかり合うことがある。理由は、自分の生活経験や好み、性格などが基となる考えしか理解できないことが多いからである。考えがぶつかり合うことで相手の立場に立って生活事象を違った視点から捉えることができるようになるかと考える。そのため、互いの考えがぶつかり合うこともまた、生活をよりよくしようとするためには重要であると考える。しかし、前頁の【問題意識】に記述しているような、2つの課題がある。

今年度は、これらの2つの課題を解決するために2つの手立てを講じる。1つ目は、子どもが対話をする必要感をもちことができるようにするために、子どもの思いや願いを基に共通の目標を設定する。共通の目標を達成するために、様々な考えが出され、対話をする必要感をもちことができるのではないかと考える。2つ目は、対話の最中に共通体験できる場を設定することで、仲間の考えのプラスな面やマイナスな面を理解することができるようにする。そうすることが、生活事象の捉え方を広げたり、生活事象を違った視点から捉えたりするきっかけになると考える。共通の目標を達成するために対話をする中で、互いの「観」を受け入れたり、諦めずに自分の考えを伝え続けたりする姿に期待する。

これらの手立てが、生活をよりよくしようとする姿にどのように作用しているかを子どもの対話記録を基に分析していく。

※1 生活事象とは、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する、家庭科の学習対象のことである。

1 題材名

クリーン大作戦！

2 題材の目標及び評価規準

B(6)ア(イ)イ		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
気持ちよく生活するためには清掃が必要であることや、汚れ方や状況に応じた清掃の仕方を理解し、清掃が適切にできる。	清掃の仕方について問題を見いだして課題を設定し、これまでの生活経験などを基に、様々な解決方法を考え、よりよい清掃の仕方について考えたことを表現できる。	気持ちよく生活するために、清掃の仕方をよりよくしようと工夫し、実践しようとする。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 気持ちよく生活するためには清掃が必要であることや、汚れ方や状況に応じた清掃の仕方を理解している。 ② 汚れ方や状況に応じた清掃が適切にできる。	① 清掃の仕方について問題を見だして、課題を設定している。 ② 設定した課題を解決するために、様々な解決方法を考え、よりよい清掃の仕方について考えたことを表現している。	① 気持ちよく生活するために、清掃の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして実践しようとしている。

3 題材について

本題材は、清掃をすることの大切さを理解し、汚れ方や状況に応じた清掃の仕方について考えることを通して、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて工夫する素地を育むことをねらいとしている。

生活をしていると、ほこりや水垢、油汚れなどが生じる。近年では、清掃道具として、清掃ロボットや便利な清掃グッズが活用されていることが多い。汚れ方や状況によっては、割りばしや綿棒、ガムテープなどの身近な道具も工夫をすることで、大活躍する清掃道具となる。どの清掃道具がよいかについて、仲間と比較・検討することを通して、普段使っている清掃道具のよさに気づき、清掃をすることの愉しさを実感する姿が期待できる。

このような内容を学習することは、多様な考えをもつ仲間との対話によって、新たな考えに出合ったり、相手の立場に立って物事を違った視点から捉えようとしたりする力を育むことができ、意義がある。

4 子どもについて

清掃について子どもにアンケートを取ったところ、よく使う道具として、「清掃ロボット」と多くの子どもが回答していた。また、清掃が苦手だと回答した子どもの理由として、「手が汚れるから。」「時間がかかって面倒くさいから。」という回答が多く挙げられた。家庭科の学習においては、第6学年題材「おいしい野菜いため大作戦」の中で、グループの目標に合った野菜いためにするための切り方について、仲間と対話をしながら納得する切り方を考える姿が見られた。しかし、自分の考えを互いに主張し合うに留まり、相手の立場に立ちながら野菜の切り方を考える姿までには至らない子どもも一部見られた。

本児は、普段から自分の考えを仲間に伝えることはできる。また、日記の中で「自分の考えをもっと多くの仲間に伝えたい。」という思いを書いていた。しかし、自分とは違う考えに出合った際に、自分の考えを主張することを諦めて、相手の考えを優先する姿が見られる。自分の考えを主張することを諦める理由としては、自信をもつことができないことと、自分の考えの根拠を上手く伝えることができないことが考えられる。そのため、汚れを落とすために、どの清掃道具がよいかについて、実際に清掃道具を試しながら対話をする中で、本児が自信をもって自分の考えを伝え続ける姿に期待する。

5 研究内容

本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

自分とは違う清掃道具を選んだ仲間の捉え方に興味をもつ姿。自分と仲間が選んだ清掃道具のよさを比較する姿。どの清掃道具がよいかについて仲間と対話する中で、葛藤したり納得したりする姿。

1：仲間との対話を通して、生活をよりよくしようとするための学習指導の在り方

本題材では、日頃から清掃にどのくらいかかわっているかとその理由について対話する中で、「心がすっきりするから、よくしている。」や「時間がかかって面倒だから、あまりしていない。」などの様々な捉え方を引き出すことができるようにする。実際に清掃道具を試す（実践①）前に「最強の清掃道具とはどのような道具か。」と問い考えさせることで、「短時間できれいになる道具を見付けたい。」などの具体的な共通の目標を設定することができるようにする。

本時では、どの清掃道具が短時間できれいになるかについて、実践①を基に各グループで対話する場を設定する。そうすることで、清掃道具の捉え方の違いに気づき、仲間の捉え方に興味をもつことができるようにする。また、教室の端に数種類の清掃道具を置いて体験できる場を設定することで、それぞれの清掃道具のプラスな面やマイナスな面を理解しながら、葛藤したり納得したりすることができるようにする。また実際に清掃道具を示しながら伝えるように促すことで、自分の考えを伝えることが苦手な子どもも自信をもって、伝えることができるようにする。

6 題材指導計画（7 時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	思考力・判断力・表現力等	態度
生み出す (1)	1 日頃の清掃の仕方について見つめ直し、学校の汚れ調査を通して、課題を設定する。 〈1時間〉 ○ 日頃の清掃の仕方 ○ 学校の汚れ調査 ○ 設定した課題（例） 学校がもっときれいになるように、清掃道具を工夫し、よりよい清掃道具を全校に伝えたい。	○ 日頃から清掃にどのくらいかかわっているかとその理由について問うことで「時間がかかって面倒だ。」など清掃に対する様々な捉え方を引き出すことができるようにする。 ○ 校内の汚れ調査を行い、汚れがある場や汚れの種類を分類させることで、汚れに応じた清掃の仕方について学びたいという意欲を高めることができるようにする。 ○ 身近な物（割りばしや綿棒、ガムテープなど）を提示し、実際にほこりを取る活動を行うことで、道具を工夫することのよさを実感することができるようにする。		①	
			記述分析		
挑む (5)	2 清掃に使えそうな身近な物について考え、それぞれのプラスな面やマイナスな面を調べたり試したりする。 〈1時間〉 ○ 清掃に使えそうな身近な物 ○ それぞれのプラスな面やマイナスな面 3 汚れに応じた清掃の仕方について考え、実践①を行う。 〈2時間〉 ○ 清掃の仕方 ○ 実践① 4 実践①を基に、課題解決に向けてよりよいと思う清掃道具を選び実践②を行う。 〈2時間〉	○ 普段使っている清掃道具や、清掃に使えそうな身近な物のメリットとデメリットを考えさせることで、清掃道具のそれぞれの捉え方を引き出すことができるようにする。 ○ 「最強の清掃道具とはどのような道具か。」と問い考えさせることで、「短時間できれいにできる道具を見付けたい。」などの具体的な目標を設定することができるようにする。 ○ 教室の端に数種類の清掃道具を置いて体験できる場を設定することで、それぞれの清掃道具のプラスな面やマイナスな面を理解することができるようにする。	①		
			記述分析		
				②	
			記述分析 発言分析		
本時 4/5	○ よりよい清掃道具 (1) ○ 実践② (1)		②		
			記述分析		
生かす (1)	5 よりよい清掃道具の魅力や、これからの生活に生かせそうなことを考える。 〈1時間〉 ○ よりよい清掃道具の魅力 ○ これからの生活に生かせそうなこと 汚れの種類や場所に応じて、身近にある道具を組み合わせできれいにしていきたい。	○ 仲間と話し合った複数の清掃道具と使い方についてまとめる活動を設定することで、それぞれの道具を工夫することのよさを実感することができるようにする。 ○ 自分たちが決定した道具以外にも、家庭で生かせそうなことについて考えさせることで、家庭での実践へとつなげることができるようにする。			①
			記述分析 発言分析		

7 本時の目標

短時間でほこりをきれいにしたいという目標を達成するために、よりよいと思う清掃道具とその理由について、これまでの経験を基に考え、仲間に伝えることができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1 実践①で使った清掃道具のよさを振り返り、本時のめあてを設定する。 ○ 実践①で使った清掃道具のよさ ・「霧吹きと割りばしは、手がよごれずに短時間できれいになってよかったな。」 ・「スポンジを濡らして拭き取ると、一瞬できれいになってよかったな。」 等 ○ 本時のめあて 短時間でほこりがきれいになる清掃道具について考えよう。 2 よりよい清掃道具とその理由について考える。 ○ よりよい清掃道具とその理由 ・「わたしは手が汚れたくないから、綿棒と霧吹きがよいと思ったよ。新聞紙は手が汚れて嫌だったな。」 ・「割りばしは、今までご飯のときにしか使ったことが無かったけど、こすることもできるし、つまむこともできて、最強道具だったよ。」 3 よりよい清掃道具とその理由についてグループで比較・検討し、それぞれのプラスな面やマイナスな面を考える。（★） ○ 清掃道具のプラスな面やマイナスな面（例） ・「わたしは、雑巾がやっぱりよいと思う。濡らして拭くとスポンジと同じ効果があるし、布だから形が変形しやすいと思うな。」 ・「スポンジは、角がしっかりとしているから雑巾よりも細かいほこりを取ることができるんだよ。」 ・「でも、雑巾も、スポンジも手が汚れてしまうから、ぼくはどちらも嫌だな。それだったら、綿棒や割りばしみたいな長い道具を使った方がよいよ。」 4 本時の振り返りを行う。 ○ よりよい清掃道具 ・「雑巾が広い範囲拭けるから1番よいと思っていたけど、綿棒や割りばしも合わせて使うことで、よりきれいになることが分かった。」	○ 実践①で使った道具で最もよいと思った道具について共有することで、清掃道具にそれぞれのよさがあることに目を向け、本時のめあてを設定することができるようにする。 ○ 実践①で適していなかった道具を想起させることで、よりよいと思う清掃道具についての理由を具体的に表現することができるようにする。 ○ 実践①を基に各グループで対話する場を設定することで、自分と仲間の清掃道具の捉え方の違いに気づき、仲間の捉え方に興味をもつことができるようにする。 ○ 教室の端に数種類の清掃道具を置いて体験できる場を設定することで、それぞれの清掃道具のプラスな面やマイナスな面を理解しながら、葛藤したり納得したりすることができるようにする。 ○ 自分の考えを上手く伝えることができない子どもに対しては、実際に清掃道具を示しながら伝えるように促すことで、自信をもって伝えることができるようにする。 ○ 仲間との対話によって、違った視点から捉えることができたことと記述している子どもを意図的に指名することで、違いを基に学ぶことの愉しさを意識することができるようにする。

9 本時の評価規準

短時間でほこりをきれいにしたいという目標を達成するために、よりよいと思う清掃道具とその理由について、これまでの経験を基に考え、仲間に伝えている。 （思考・判断・表現②）【記述分析・発言分析】

9月28日(月) クリーン大作戦④

目標: 教室を汚やくする短時間ですみ病まできれいになる道具を提案せよ

グループで最強道具について考えよう。

ほこり

配せんちの下
黒板の上
ロッカーの上

水(2リットル)
A
B
C

大きなほうき
手が汚れる

長い 奥まで
手が汚れない

水 汚れどやさしい
△ビリにぐいすであた
液体

ティッシュ 後片付けが楽
7回で終わる
最強道具
目的に応じて使い分ける
まだ迷っている

ズボン 吸収する
水でいいというまで

掃除機
すみ
裏
間

1. 掃除機で床を吸う
2. 掃除機で机を吸う
3. 掃除機でロッカーを吸う
4. 掃除機で黒板を吸う
5. 掃除機でロッカーを吸う
6. 掃除機で黒板を吸う
7. 掃除機でロッカーを吸う